

# 見逃さない！ 内分泌疾患 意外なつながりを 読み解く視点

日常診療において、内分泌疾患は決してまれな疾患群ではありませんが、その症状は非特異的であることが多く、つい見逃されがちです。慢性の倦怠感、体重変化、血圧異常、月経異常、うつ症状など、日々の診療でよく遭遇する症候の背後に、実は内分泌疾患が潜んでいることは少なくありません。こうした疾患を早期に見抜くためには、特徴的な症候群に関する知識だけでなく、「ちょっとした違和感」や「説明のつかない異常値」に気づく“診療の勘”も必要です。

本特集では、総合内科医やプライマリ・ケア医が見落としやすい内分泌疾患を臓器別に取り上げ、それぞれの“サイン”をどのように捉え、いかに早期診断へつなげるかについて、第一線の専門家が解説します。

各項目は下垂体・甲状腺・副腎・副甲状腺・性腺といった内分泌臓器ごとの構成とし、それぞれ見逃されやすい代表的な疾患について、診断の勘どころ、検査の進めかた、注意すべきピットフォールを、豊富な臨床経験に基づいてご執筆いただきました。

さらに、「日常診療での使いやすさ」を重視し、内科医が診療現場で明日から役立てられるような“実践的 tips”の提示もお願いしました。

見逃されやすい内分泌疾患に対する感度を高めることは、患者の予後を改善するうえできわめて重要です。本特集が、内分泌疾患に対する臨床医の“気づく力”を高め、早期発見と適切な対応の一助となることを期待しています。

日本医科大学大学院医学研究科内分泌代謝・腎臓内科学分野

岩部真人